

「SDGsの目標2（飢餓をゼロに）に関わる活動」

学校名 海星学院高等学校

校長名 堺 俊光

担当者名 市川 栄作

本校は、室蘭市にある男女共学、全校生徒213名のカトリック系のミッションスクールであり、アメリカの修道会が約60年前に設立した。アメリカ修学旅行・語学研修や、北海道洞爺湖サミットあるいは豪華客船室蘭来航にともなう通訳ボランティア（外国人の観光サポート）などの国際理解における取組が評価され、2010年10月にユネスコスクールとして認定された。現在、本校は、「世の光となれ」をモットーに、ESDをミッションスクールの使命と捉え、SDGsを主なテーマに持続可能な社会の担い手の育成を目標として活動している。

本校のESDは、①SDGsに係わる学習活動、②SDGsに係わる活動、③国内被災地支援に係わる活動、④その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動の4つの互いに関連する活動から構成されている。今年度は、国連専門機関・大学・NGO・地域のユネスコ協会など国内外の諸団体と連携し、28の活動（①6、②6、③4、④12）を行った。このうち、SDGsの目標2に関わる活動について報告する。

1 活動の趣旨

世界の食料問題について理解すること、世界の食料問題に取り組む活動を含めてSDGsに関心を持つことを目標に、国連専門機関、NPO、企業などと連携して、講演、ワークショップ、校外での奉仕活動を行い、持続可能な社会の担い手としての資質を培う。

2 活動計画

7/10 特別講演会「紛争と食料問題」

8/6-7 WFD 高校生スタディーツアー参加

10/17 ワークショップ「ハンガーバンケット」開催

ワークショップ「おにぎりアクション」体験活動開催

※この他 4回の募金活動・奉仕活動（6/24、9/16、10/8、10/9）

3 活動事例

①特別講演会「紛争と食料問題」



ボリコ所長による講演

FAO 駐日連絡事務所代表 チャールズ・ボリコ氏による世界の食料格差についての概説及びFAOの取り組みについての講演。生徒は、講演を通じて、世界には十分な食料があるにもかかわらず、全ての人に行き届いていない現実、紛争に起因する飢餓の頻発、FAOの取り組み、フードロス削減の重要性などについて理解を深める。

②WFD 高校生スタディーツアー参加



FAO 駐日連絡事務所訪問

地域で世界の食料問題について啓発活動を行う世界食料デー登別大会実行委員会主催のツアー。生徒 2 名が参加。FAO 駐日連絡事務所・国連 WFP 協会・JICA 横浜を訪問。SDGs と諸機関の具体的な活動の関連、国際協力に携わる人材に求められる資質について、理解を深める。ツアー後、参加者は主催者の地域イベントで市民向け発表を行う。

③ワークショップ「ハンガーバンケット」開催



世界の食料格差を疑似体験

世界食料デーにちなみ、NGO オックスファム・アメリカが開発した世界の食料格差を可視化し、疑似体験するワークショップ。世界の統計データをもとに、所得から 3 つのグループに分かれて、食事をとる。生徒は、グループ毎に異なる「食事（質、量）」を通し、その不平等性を実際に体験し、食料問題への関心を高める。

④ワークショップ「おにぎりアクション」体験活動開催



ユニークな支援活動を体験

③に続けて講義を実施し、生徒は世界の食料問題に取り組む活動例と SDGs について理解を深める。その上で、生徒は、おにぎりの写真を投稿するとアフリカ・アジアの子どもたちに給食が届く支援活動「おにぎりアクション」を体験した。同活動を主催する NPO 法人 TABLE FOR TWO International 及び 協賛企業である味の素冷凍食品株式会社の協力で提供された食材を使い、生徒はおにぎりを作り、記念撮影を行う。これらの活動を通じて、生徒は楽しみながら、国際協力の方法の多様性や、地球的諸課題の解決及び SDGs 達成における「柔軟な発想」の必要性について理解を深める。

4 成果と課題

振り返りシートの記述から、世界の食料問題及び SDGs の目標 2 への意識の変容が見られる生徒が多数おり、概ね目標を達成した。また、主体的な行動が地球的諸課題の解決につながることを体感し、奉仕活動に積極的に参加する者や、学習内容と他の SDGs の目標とを関連付ける者も現れた。ESD を通じて高まった地球的諸課題への関心から海外に全国・全道の代表として派遣される生徒などもおり、地域や保護者の本校への理解も深まっている。

一方、地域の抱える課題についての活動は途上であり、その充実が今後の課題である。